

# 大念佛

No.49

発行 / 融通念佛宗総本山  
大念佛寺  
大阪市平野区平野上町1-7-26  
TEL.06-6791-0026



## お盆に寄せて

### 供養のこころ

融通念佛宗総長 吉村 障英

日本には古くから魂祭(たままつり)という先祖の霊を招きまつる風習があり、年に何回も行われていたのが、今ではお盆にこれを行うというのが一般的になりました。

故郷を離れ都会に生活している人が、お盆には必ず帰省する習慣も定着しています。

亡き人の霊を迎え供養するというこの美しい風習は、日本人の心情の奥深くに根づいており、日頃、忘れがちな亡き人への追慕の情がなつかしくよみがえるのもこの時期です。

精霊棚に様々な食物を供え、茶湯を一日に何回もと替えて、あたかも生きている人に対するようにお給仕するのです。そのためお盆の間は忙しくて大変だという声をよく耳にします。

「お婆ちゃんがいた頃には、それこそ丁寧におまつりしたのですが、私ほどもそんなようにはいきません。もっと簡単にしてもいいでしょうか。」

「うちも簡単にしています。ご先祖さまは許して下さいませよ。昔と今は違うんですもの。要するに気持ちさえあればいいと思いますよ。」

「その通りですね。それを聞かせてもらって安心しました。要するにご先祖さまへの気持ちが大事ということですね。」

こんな会話が奥様の間にかわされています。お盆を迎える心準備をされていて、ほほえましく思います。しかしちょっと気になることがあります。この会話で、気持ちさえあればというのは、たしかに都合のいい言葉です。さてそれではその気

持とはどのようなものか。ここでいう気持とはご先祖さまへの感謝と敬いの気持ちをいうのですが、それはどのようにして培われるのでしょうか。感謝とか敬いとか、目に見えない抽象的な概念をはつきり自覚するためには、お仏壇を清掃し、香華や供物を献じる具体的な行いを通して、はじめて実感されるものなのです。手抜きばかりでは、感謝も敬いも、そしてそれによって得られる喜びも心の中を通り抜けていきます。

比叡山に浄土院という一坊があり、ここに伝教大師最澄の御廟があります。ここでは侍真と呼ばれる行者が、十六年間、外出せず世俗との交わりを断ち、ひたすら行法に打ち込んでおられます。侍真の仕事は伝教大師にお仕えることであり、具体的には勤行(おつとめ)、掃除、食事の給仕等です。食事は朝昼の二回です。寺務所から運ばれてくる食事を作法によってお供えし、それを召し上ってもらうのです。大師が今も生きておられるものとしてお仕えし、お食事を差し上げるのです。そしてお下げしたものを侍真さんがいただくのです。ここには本當の供養の心が息づいています。

生活様式が変化した現代、ある程度の簡略化はやむをえないでしょう。しかしせめてお盆の間は、ご先祖さまへの供養を第一と考えていただきたい。一家の奥さまが一所懸命ご先祖さまのお食事を作っておられる姿は、まさに無言の説法であり教育なのです。お供えし終えてから同じ物を家族揃っていただく。なんとも

# 融通念佛宗 第四回教化活動発表会の 開催にあたって

第七教区教区長 大念寺 礎忍澄



京都大原良忍物語

今日、世界では戦争やテロ事件が後を絶たず、国内でも凶悪事件の連続に加え、子どもやお年寄りに関わる事件が目覆いたくなるほど残忍な内容で続出するなど、暗いニュースばかりが聞こえてきます。

私たちは国の内外を問わず全ての人々が幸せであることを願ひ、互いに傷つけあつたり殺しあつたりすることを、今や一日も早く終わらせなくてはなりません。

この間の戦後というものの、私たちはまっしぐらに「豊かな生活」「便利な生活」を目指して廃墟の国土から今日の繁栄を築いてまいりました。でも、その道のりの途中でとても大切なものを捨てて来てしまったようです。「衣・食・住など物の世界」がきらびやかすぎて、「物には換えられない心の世界」が疎んじられ、相手の悲しみを自分の悲しみと感ずる心、相手の喜びを自分の喜びと感ずる心

は最早無くなってしまったのでしようか。今では人の悲しみを裏で笑ひ、人の喜びを執拗にねたむ風潮が蔓延し、自己中心的で人とのつながりの結び合えない孤立した心がいたるところで今日の犯罪やトラブルを起こしているように思っています。

今日、私たちに求められていることは非常にたくさんあるのかもしれない。そのような中で今取り戻すべき一番大切なことは、決してひとりでは生きていけないというあたりまえのことを、今一度心の中に思い起こすことではないでしょうか。「自分(わたし)」「他人(ひと)」「共に生きる」「共に育つ」「共に助け合う」

宗祖良忍上人はおよそ九〇〇年前、京都大原の里で「一人一人 一人一人 一行 一行 一切行 一切行 一切行 十界一念 融通念佛 億百万遍 功德圓滿」というおことば(金口の妙偈)を阿弥陀如来から直接お授かりになりました。『自分も大切にすけれど、』「相手も自分」であると思つて、かけがえのない自分と同じように大切にす。なんでもないとと思われるようなことであっても一つの事を誠心誠意こころをこめて最後までやりきる「一事が万事」の行いは何にもまして尊い。そんな願いや行いは不思議にも宇宙すべての妙力も味方して、ことが円満成就する。』がおことばの精神であり融通念佛の本旨であります。いわゆる菩薩さまの「慈悲」と「智慧(ちえ)」

り戻すべき一番大切なことは、決してひとりでは生きていけないというあたりまえのことを、今一度心の中に思い起こすことではないでしょうか。「自分(わたし)」「他人(ひと)」「共に生きる」「共に育つ」「共に助け合う」

の教えであり、今日私たちが抱える問題に真正面から指し示して下さっている回答です。この菩薩さまのお心と行いを取り戻すことが、この現代社会の今に最も求められていることではないかと思つています。

幸いにいたしまして、第四回教化活動の実施にあたり、第一教区第一回発表会の創作狂言「京都大原良忍物語」は、良忍上人のお授かりになった阿弥陀如来の教え・菩薩さまのお心と行いについて、良忍上人の物語と菩薩来迎をテーマに分かり易く表現されており、教化活動公演として意義も得て時機にもなつておりますので、来る十二月十五日に再度取り上げ実施開催させて頂くことになりました。

プログラム全体につきましては、工夫を加えて三部立てで実施をいたします。融通念佛宗の歴史と縁(ゆかり)の地のスライド紹介、そして管長宛下ご導師による参加の方々とともに平和祈願法要を予定しております。どうぞご期待をいただきまして多くの方々にご来場いただければ幸いです。

### ◎実施要領

- 一 公演名 狂言と菩薩来迎の世界／満たされる心・融通の灯(ともしび)／
- 二 実施日 平成十九年十二月十五日(土) 午後一時三〇分より
- 三 場所 奈良県橿原文化会館
- 四 内容 第一部 開会並びにスライド  
第二部 「融通念佛宗の歴史と縁(ゆかり)の地」  
創作狂言「京都大原良忍物語」公演  
主演 和泉流狂言師・小笠原匡  
協力 大念佛寺諸役の方々
- 第三部 平和祈願法要  
管長宛下ご導師による法要
- 五 入場 無料
- 六 申込み・問い合わせ 総本山大念佛寺教化委員会  
電話〇六(六七九一)〇〇二六

## 「歴史(時代)小説における 融通念佛宗」

大念寺住職 磯田 龍彦

現代は歴史(時代)小説ブームであり、多くの作家が書いておられる。しかし、その中、各宗の祖師の名がたまに出る事はあつても教義の深い所まで書かれる事はほとんどないと思われる。もちろん各宗祖師を中心とする小説等は別である。まして我が宗に関することが書かれる事などあまりないが、わずかに私の知る限り、池波正太郎の『鬼平犯科帳』の中に、祝園、常念寺の名が、また司馬遼太郎の『義経』の中に良忍上人の名が見られる。特に『義経』は、我が宗をかなりくわしく書いてくれているのでその本文を紹介する。

(ちなみにこの来迎院一派の僧は、比叡などの官設寺院の僧とはちがひ、新流儀の教義を奉じている。融通念佛という教義である。この一派をひらいたのは、尾張知多郡富田のうまれの良忍という僧で、比叡で修行し、のち山をおりて一宗を開いた。「念佛とは融通しあうものだ」というのが、良忍の独創である。一人が唱えれば全人類を救うにたり、全人類が唱えれば一人を救うに足る、というものだ。良忍の言葉でいうと、一人は一切人であり、一切人は一人である。一行は一切行であり、一切行は一行である。ということになる。不思議な論理だが、こういうインド風の弁証法的論理はもとと華嚴經にあり、良忍はこの経によつてこの論理を悟り、活用し、ついにはこの論理を念佛行に応用し、いままでと全くちがう「極楽への行き方」を考案した。当節、貴族も庶民も、ただひたすらに、「死後、どの教義に頼れば極楽に行けるか」とのみ考え暮らしている。当然、良忍の融通念佛は大いに流行した。良忍はさらに布教にも新工夫を思いつき、念佛者名帳という名簿を作り、「この名簿に載つた名は極楽の主人である阿弥陀如来がごらんになる。されば極楽往生は決定である」といつて持ち歩き、時の上皇の鳥羽院でさえ、御所に良忍をよんでそれに署名された。ところがそれほど流行したこの宗旨も、良忍が死んですでに四十年ですですに衰退しはじめている。いや衰退した、と言つていいい。)

【注】次の文からは別の場面である。(じつをいえば宗祖の良忍もよく似た靈験を用いている。良忍が「念佛者名帳」を都のあちこちに持ちあるいていたころ、一人の僧がきて、「せひその名帳にわが名をお加えください」と懇望した。その僧のただならぬ様子に良忍は驚き、名をきくと、「鞍馬山に鎮座する毘沙聞天」と僧は答え、掻き消えた。そのあと名帳をみると墨くろくろと梵字でヴァイシユラヴァーナ(毘沙聞天)という署名がなされている。この評判は良忍の人氣をいやが上にも沸騰させたものだが……)とある。

その他司馬氏著作では、「上方武士道」という小説にも我が宗本山が少しのついでに、我が宗と時宗を混せて書いている。まだ『義経』を読まれておられない方に、我が宗がかくも長文として書かれたというのを喜ばしく思つていただきたく紹介させていただきます。



### 第三回教化活動発表会 「ひろげよう！融通念佛の輪」に参加して

東大阪市 中村 義美

会場に到着すると、すでに沢山の参加者がおられ、その盛況に驚きながら二階席に着きました。

はじめのご挨拶から、改めて融通念佛宗の歴史や今日の大念佛寺の隆盛を知ることができました。

第一部「融通念佛の雅楽の合奏」が始まりました。母方の祖父が桐宜で、母の実家は神道ですので笙・箏・尺八の演奏が主でしたが、

声明との合奏をライブで聴くのは初めてでした。不思議な、肩の力が抜けていくようなリラックスした雰囲気になりました。

「癒される」というのはこのような感覚を言うのでしょうか。やがて、建礼門院さまが登場されますと、清らかなお姿に目が釘付けになりました。

建礼門院さまの深いお悲しみは、舞い散る華に象徴されているように感じました。静かな凛とした美しさに感動し、

みとれておりました。演奏、舞台演出共に荘厳で美しく、しばし現実の憂さを忘れさせて頂きました。

第二部の五木寛之先生のご講演は、私にとっては、身につまされることが多々ありました。先生は最初に「生きていくだけで大変」と言

われました。昨年は、身内に事故、病氣、入院、手術など毎月のようにありました。何事もなく無事に



建礼門院さま

平成十八年十月八日尾ブリスモールにて

過ぎる一日のありがたさに、改めて感謝を致しました。

また、「悲しみ」についてのお話の中では日本には、中国の「悵(ゆう)」や、韓国の「恨(はん)」に相当する字がないと言われました。

ロシアでは同時に「トスカ」ということばがあるそうです。これらことは、「深い喩えのような深い愛い、悲しみ」を表現するのだ

そうです。辛く、悲しく、気が沈むのですが、人間にとつては必要なものと考えられているのだ

です。先生のお話によると、日本人は、終戦後の数年間を除いて、この必要な「愛い、悲しみ」を避けて生きてきた。その結果が今日の

「心が病む時代」に繋がったのではと。しんどいことは避けて生きてきた私にとつては耳の痛いお話でした。

先生は、また「他人の苦しみを替えることはできないが「共苦」

「共感」はできる」と言われました。「共苦」は「共感」をするには、

他者の苦しみを想像し理解しよう

### おかげさまの心で

中壘寺 中川 直也

八月に入るといよいよお盆です。古いインドの言葉でウランバナ

を音訳したのが盂蘭盆で、これを略して盆というのですがうまくいい表わされたものと感心します。

「でたでた月が 円い円いまん 円い お盆のような月が」こんな童謡がうかんできます。

普段は雑事に追われてとげとげしく、何かと角のたやすい我が心を、円いお盆や満月のお月さまのように

とする姿勢が必要です。「深い愛い、悲しみ」と真剣に向き合った人にこそできるのかもしれない。

良寛さんの言葉として紹介された、「君看双眼色 不語似無憂」、読み下し文は「君看よ双眼の色、語らざれば愛いなきに似たり」、現代文では「目の色を見なさい、何も言わなければ愛いがないように見える」とでしょうか。言いかえると、

「語れないくらい深い愛い悲しみがその目に宿っている」人は皆、そのように生きなければならぬ、まさに「生きていくだけで大変」

です。しかし、「愛い、悲しみ」を耐え抜いた後に見える光明があるのでは、と考えたとき、第一部の建礼門院さまの物語とお姿が頭に浮かびました。

五木先生のお話は、深く考えさせる内容であると同時に、私にとつては、これからの人生で困難に遭遇したときの道標として、繰り返して想起するであろう内容で、静かな中にインパクトがありました。

おかげさまで大変充実したひとときを頂きました。担当されたお寺様方のご努力の賜物と心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

円やかな心に、円満な家庭にしたいものです。

お盆という言葉を知ると、日本人の心は今は亡き先祖や父母のことを思い出し、お墓へお参りし、ご先祖さまに「ことしのお盆にもどうぞお帰下さい。皆でお待ちしていますから」とご招待をし、感謝の気持ちでみ霊を家庭に迎えます。

精霊棚にキュウリの馬やナスの牛をお飾りするの、ご先祖さまをお迎える時は足の速い馬で、お送りするときはゆっくり歩み、お土産どつさり力の強い牛に乗ってお帰りにいただきますという思いからなので

### 『お中元の由来』

中国の故事によると、お正月の十五日を上元、秋の十月十五日を下元としており、七月十五日の中間と併せて「三元」と呼んでいま

した。そのうちの七月十五日に生まれた天神が、罪を許す神だったことから、この日は贖罪の日とされ、中国の人々は自身の罪を贖おうとして金品を準備する習慣

が生まれました。この習慣が日本にも伝わり、これが「盂蘭盆会(お盆)」や「御霊祭」の行事と結びつき、ご先祖の霊をおまつりし仏

に供えたお供物を親戚や隣近所に贈る習慣となり、お世話になった人に贈り物をする習慣へと変化して

いきました。さてここで、東大阪市に在住の熱心なお檀家を紹介いたします。

ここにもありました、生仏一如(我々衆生は本来仏であり水と氷のようなもので、本来は一つである)の合掌の姿が。

西昌寺 磯田 時雄

お盆の経絡にお参りさせていただきました。お精霊さまにお供えする霊供も朝・昼・晩とそれぞれの家にはそれぞれのお献立があつて「ことしのお盆のお味は加減はどうですか」などと、いろいろ話かけながらお給仕をしておられる姿に接しますと、まさに在すが如きお接待と頭が下がります。

こうした供養は、我がいのちに続くご先祖さま、亡き父母への感謝と報恩の心にはかなりません。私たちが今日、この世に生を受け、かように過ごせるのは、目に見えない

### 『父の死から得たもの』

東大阪市 大森 祐起生

桜のつぼみが膨らんだ事にも感心を持たず、いつまでも冬の服装のまま、私たちはただひたすら父の病院へ通った。闘病生活は二月月

に飽まれ、平成十八年四月一日に他界した。入院して体を完全に治して帰ってくるはずだったのに、

孫の幼稚園のお迎えに行ったり、本読みのサインをしたり、甲子園球場に行ったり、私と歴史の旅をしたり、家族全員で焼肉屋に行ったり、退院したら色々やりたい事を持っていた。

現役の頃、父は電気工事士として仕事一筋でたっさんの仲間と共に丁寧に仕事をやり遂げていた。後輩に慕われ、先輩からも信頼され、いつも穏やかな気持ちで接していた。家族に対しても愛情深く、仕事が忙しくても家族の絆を大切にしている人であった。そんな父が、七十二才で帰らぬ人になるとは、本人は

もちろん私たちが家族にも、信じられない現実を認めるのは難しかったのである。

医師から父の余命が数日であるといふ。父の願いに支えられ、お加護があつてこそのことです。ややもすると私たちは、一人で生きていくと思いがちになりやすいものですが、決して一人で生きていくはずはありません。日常の中で多くの人や物に支えられ生かされることによつて生きていくのが私たちです。

「おかげさま」という言葉のとおり、「かげ」すなわち亡き人の見えない力によつて支えられているのです。いのちを考えると、生きていく日常に感謝する心を深めていきたいと思います。

父を亡くした悲しみは大きいが、そのかわりに得たことがある。病の床にある父や看病中の私たちが家族を励まし、父が亡くなってからも適切なアドバイスをして下さった叔父夫婦。何日も付き添って下さった叔母に対する感謝の気持ちと深い絆、西昌寺さんを通じて出会えた融通念佛宗と般若心経である。父は今でも家族の事が心配であらう。私たちが家族に安心してもらえるよう、しっかりと足を

つけ、いつも感謝の気持ちを忘れず前を向いて生きていきたい。





# 末寺巡礼 ③ 東成区の寺々

大東 良清

## 西蓮寺

大阪市東成区大今里三二一八三二

円融山西蓮寺と号するこの寺の開基は不明ですが、大念佛寺四十五代末寺帳によれば浄土宗より改宗したと記されている。

境内に在るお堂に、朝夕地域の方々のお参りがたえない地藏菩薩像と共に石造の弘法大師をお祀りする事から真言宗に属していた頃も有ったかと推察される。現在の本堂は昭和六十年に再建された。



西蓮寺



## 良念寺

大阪市東成区大今里三二二五〇三三

一光山良念寺と号するこの寺は、延宝五（一六七七）年の記録に「代々看坊当住浄土宗平僧善性六年前以前人寺今大念佛宗帰依」とあるよう、浄土宗だったがその時より、今日に至るまでは融通念佛宗の寺院として奉られていた。それ以前は寺



良念寺

歴不詳である。天明二（一七八二）年四月善性和尚建立といわれているが、平成四（一九九二）年十月に、第十九世良彦により現在の様相に再建され、それまで境内に祀られていた十三仏の石碑を平成十（一九九七）年南隣地に「檀信徒有縁合祀墓」として開眼する。現在は第二十世信彦（平成九年）である。

## 観光寺

大阪市東成区大今里三二七一九

西海山法輪院観光寺と号するこの寺は、開基創建不詳であるが、延宝三（一六七五）年、僧、正玄再興、また一説によると、僧、恵秀の開基と伝わっている。「永代萬覺日記」によると、宝永四（一七〇七）年十月四日震災にあつてい。また、明治十八（一八八五）年の水害にて、廢刹に帰し、翌年坂本堂庫裡を新築した。現在の本堂は昭和四十年に再建されており、当代住職二十四世である。毎月第三土曜日（八月は休み）午後一時より本堂にて、般若心経の写経会を行っている。



観光寺



大念佛教会

してしまいが長い間そのままでした。昭和五十二年現在の地に大念佛教会として再建される。第四世道知が住職。

# 融通声明とキリスト聖歌の共演 第二回 宗教音楽へのいざない開催

去る六月十日、奈良市の徳融寺にて融通念佛宗声明研究会青年僧有志による「第一回宗教音楽へのいざない」が開催された。同公演は、自己研鑽と宗門繁



栄を目的に、声明研究会の中から若手を中心とした七名が参加し、第一回目の今回は、ゲストに奈良市内にあるキリスト教の親愛幼稚園に子どもを通わせる母親で構成された「アンサンブル・シオン」を招き、声明とキリスト聖歌という宗教の枠を超えた共演を実現さ



第一部

の音楽の原点ともいえる重厚な声明の旋律に、「お寺の本堂に上がるのは初めて」というキリスト教の信者や「声明の読み方を知らなかった」若者が聴き入っていた。

第二部には透明感あるソプラノの歌声が堂内に響き渡り、寺院でキリスト聖歌という「妙」に観客は引き込まれていた。若者層が目立った今回を踏まえ、声明有志会の伊藤宗純事務局長は「音楽は万人の心を響かせるだけでなく、かつて良忍上人がそうであったように、自然の形をも変えるパワーをもっている。仏教者の私たちは、声明という音楽で信仰の薄れつつある次世代に布教していきたい。」と力強く語った。なお、次回は来年初頭に開催予定

# 大念佛寺年中行事のご案内（八月～年末）

## ◎精霊流し

八月十五日 午前十時～午後四時

## ◎孟蘭盆・法界大施餓鬼万灯会

八月十六日 午後七時

## ◎大和御回在御出光

九月九日 午前六時

大念佛寺から毎年大和地方に御本尊の天得如来の画軸を奉持し、鉦を叩きながら末寺と檀家の家々を回り、御祈祷と先祖供養を行います。

元祖聖応大師の念仏勧進の姿を今に伝える行事です。

## ◎融通念仏会

九月十六日 午前十一時

ご一緒にお念仏を称えましょう。

## ◎百万遍会

九月十六日 午後十二時三十分

法主親下の身体堅固のお加持が参詣人一人一人に授けられます。その後御札授与。

## ◎秋季彼岸会

九月二十三日

## ◎亀鉦まつり

十月十五日 午前十時

本山に伝わる亀鉦をお祀りし法要の後、融通教会会員による詠讚歌舞奉納、「亀鉦由来和讃」等を詠唱します。

## ◎胎内仏納骨法要

十一月三日 午後一時～三時

## ◎十夜会

十一月十四日 午後三時

本堂に於いて布教、詠讚歌舞奉納等があります。（厄除がゆ施与）

## ◎大和御回在御帰院

十二月十七日 午前十一時三十分

## ◎除夜法要

十二月三十一日 午後十一時（鐘撞き、ぜんざい施与）

## ◎定例布教

毎月二十六日 午後一時三十分（二十六日が日曜の場合二十七日に変更します）

## ★瓦勧進のご案内

一口二千円で受け付けております。

## ★写経のご案内

毎月二十六日、午前十時より午後三時まで、白雲閣一階大広間で写経（一巻千円）を行なっております。

## ★納骨のご案内

本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で納骨を受け付けています。宗派は問いません。お問い合わせ

☎〇六六七九一〇〇二六

## 融通念佛宗総本山 大念佛寺

管法主	倍巖	良舜
宗務総長	吉村 暉英	
教学部長	中江 慈光	
庶務部長	岡田 眞澄	
財務部長	北川 全宏	

# 話せば心も軽くなる 大阪仏教テレビホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。  
月曜日：日蓮宗 火曜日：浄土宗・融通念佛宗 水曜日：臨済宗・曹洞宗・黄檗宗  
真宗大谷派 木曜日：天台宗・真言宗 金曜日：浄土宗・浄土真宗本願寺派  
（月曜日～金曜日）一月十四日～二十四日（八月休）  
でんわ 〇六（六二四四）五一〇 午後二時～五時迄